

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジヨージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第17回

ニッティ・グリッティ・ダート・バンド 「コスミック・カウボーイ」 テキサスの一面を象徴する名(?)曲



Nitty Gritty Dirt Band
"Stars And Stripes Forever"
United Artists UUA-LA184J2 [1974]
⇨Beat Goes On©BG0CD128

ニッティはこのライヴ版を録音している
と俺は推測する。何より詩が違ふし、それ
は第3ヴァースでよくわかる。ニッティは、
マイケルがまだ詩が完全ではない状態でラ
イヴで披露したこの曲を取り上げ、マイケ
ルの方は自身のアルバムのリコーディング
時に、改めて詩を練って完成させたのでは
ないだろうか。

50年代後半から60年代前半にかけて、日
本のテレビでは「ライフルマン」や「ロー
ハイド」などの西部劇が流行っていた。小
さかった俺もカウボーイ・ハットをかぶっ
て、その気になっていた。のちにロング・
ヘアでロックやカントリーを聞くようにな
った俺は、この曲を自然に受け入れたんだ。
曲名の「コスミック・カウボーイ」は、

70年代のテキサスのオースティンを中心に
起こっていたムーブメントの総称にもなっ
た。テキサスの社会は『イージー・ライダ
ー』の世界そのもので保守的だが、オース
ティンに集まる人たちは、ロックやブル
ース、カントリーまで幅広く聴くうえでロン
グ・ヘアという出で立ちで、テキサスのな
かでは異彩を放っていた。この曲がきっか
けで、そんな人々が、コスミック・カウボ

今回選んだのは、74年の『星条旗よ永遠
なれ! (Stars And Stripes Forever)』
に収録のマイケル・マーティン・マーフィ
ーのカヴァー曲「コスミック・カウボーイ」
で、これはライヴ・ヴァージョンだ。この
アルバムは、何か所かでのライヴとスタジ
オ録音、インタヴューをミックスしてつく
られた。マイケルも73年の自分のアルバム
でこの曲を発表しているが、それよりも前

ニッティ・グリッティ・ダート・バンド
は1965年に南カリフォルニアで結成さ
れた。彼らのレパートリーは、オリジナル
曲よりカヴァー曲が多かった。当初は
ジャクソン・ブラウンもメンバーだったが、
わずか3か月ほどでやめている。そんな彼
らが大ブレイクしたのは、72年にリリース
された3枚組のアルバム『永遠の絆 (We
The Circle Be Unbroken)』によってだ。

「イー」と呼ばれるようになったんだ。

Merry-go-rounds and burial grounds
Are all the same to me
Horses on posts and kids and ghosts
Are spirits we'd like to set free

これはニッティが歌った詩で、1行目か
らマイケルの完成版とは違う。マイケルは
"burial grounds"の方を先に書いていた。
これはネイティヴ・アメリカンの墓の敷地
のことだから、メリーゴーラウンドより意
味があると思ひ変更したのだろう。メリー
ゴーラウンドの支柱上の馬と、子供と幽霊は、
みんな自由にしてあげたい精霊だという。

Them city slicker pickers
Got a lot of slicker licks than me
But riding the range and being strange
Is where I want to be

「city slicker」は街から田舎に来る人た
ちを指す。「slick」は滑りやすいほどスムー
ズ、つまりちよっとおしゃれ過ぎる人のこ
とだ。ここでは街から来た「city slicker」

に、「picker」=ギターを弾く人という言葉
を足している。街から来た人たちが、
俺たちよりもっとおしゃれなギターを弾く
けど、俺は構わな。'riding the range'
は西部の大牧場で馬に乗り仕事してること
と、'being strange'はふやけたことをす
るという意味で、ここのほうが楽しくと
いう。ちなみにマイケルの完成版では'be-
ing strange'を'acting strange'と歌い、
馬鹿のふりをしてるという詩に変更して
いる。

(chorus) And I just want to be a
cosmic cowboy
I just want to ride and rope and hoot
Well I just want to be a cosmic cowboy
A supernatural country rocking galoot

俺はコスミック・カウボーイになりた
い。'ride and rope and hoot'をしたいん
だ。'ride'は馬に乗る、'rope'はカウボー
イのロープを使う技、'hoot'はヤッホーと
叫ぶこと。アメリカ人はよくライヴで叫ぶ
だろう? それが'hoot'。最後の1行で、
スーパーナチュラルなカントリーにロック

しているガルトとあるが、'galoot'とは
ちよっとエキセントリックでふざけている
人のことを指す。

Well skinny-dippin' and Lone Star
sippin'
And steel guitar
Are just the same as Hollywood
And then boogie-woogie bars

このヴァースでも、1行目の歌詞がニッ
ティとマイケルでは逆になっている。マイ
ケルは自身の詩の完成版で、'Lone Star
sipping and skinny dipping'と歌った。
きくとテキサスのイメージを鮮明にするた
めに、位置を変更したのだろう。'sippin'
は飲むこと、'Lone Star'はテキサスのビ
ールの名前。つまりテキサスのビールを飲
むことだ。テキサス州の旗は青と赤と白で
大きな星がひとつある。だからローン(ひ
とつ)・スターの州と呼ばれている。ち
なみに'skinny-dippin'は裸で泳ぐこと。
アメリカの若者たちはすぐ裸になって泳ぐ
からね。裸で泳いでテキサスのビールを飲
んでいるのと、ハリウッドのプギウギ・バ

ーにしているのとは同じだと。またマイケルの詩の完成版では、'Just the same'が'Just as good'に変わっている。裸で泳いでビールを飲むのは、ブギウギ・バーで飲むぐらい、いい。それほど、テキサスにブラインドがあるんだと俺は思う。

I'm gonna buy me a vest and I'll head out west
My little woman and myself
And when we come to town
The people gather round
And marvel at my little baby's health

「ヴェスト(カウボーイの象徴)を買って西に向かおう」。当時のアメリカは、いつも西へ西へと向かっていたんだ。女を連れてね。この場合の西は、自然が広がる世界のことを指す。そして、俺たちが街にくると皆が集まる。健康的な俺のベイビーに驚くだろう。街の人たちには経験できない自然な生活をしているから健康なんだ。この'baby'は、彼女か奥さんのことだろう。

(chorus) Well a big raccoon and a



Well I got me a woman
She lives down south
She fix me supper at supertime

最後のヴァースは、マイケルとニッテイの詩が驚くほど違う。ニッテイが取り上げた段階での詩は、単純過ぎるように俺は思う。'harvest moon'は秋分の満月、ハーヴェストは畑で育てた野菜を収穫すること。'Running through my mind'は頭の中で考えがグルグル回っていることで、つまり大きなアライグマと満月が俺の頭の中で走り回っているという詩だ。

Well I got me a woman
She lives down south
She fix me supper at supertime

俺には南に住む女がいる。夕飯の時間になるとゴハンを作ってくれる。この詩はビドイと思う(笑)。反して、マイケルの完成版は、こうだ。

Home on the range
Where the antelope play Is very hard to find

これは、アメリカに昔からあるフォーク・ソング 'Home On The Range' から歌詞を借りている。カンザス州の州歌だ。1870年にブルースター・エム・ヒグリー博士が作詞したもので、アメリカ西部を歌う代表的な曲だ。オリジナルでは、バッファローがいて鹿とカモシカが遊ぶような草原が、自分たちの住む場所と歌う。しかしここでマイケルは、そんなところは最近見つけるのが難しいという。ニッテイが歌った元の歌詞より断然いいと思わないか。とはいっても、この曲はニッテイが歌って初めて有名になったわけし、彼らのヴァージョンの方が人気があることは間違いない。ニッテイ版は『ビルボード』で最高28位、マイケル版は196位だった。

Don't bury me on the lone prairie
I'd rather play there alive

「俺を寂しい野原に埋めないでくれ。俺は生きていたい間、そこで遊びたいんだ。'play'は、演奏することにも引っかけている。これもアメリカのフォーク・ソング 'Bury Me Not On The Lone Prairie' か

らの抜粋だ。この曲は「カウボーイのラメント(＝カウボーイの嘆き)」とも呼ばれ、アメリカで最も有名なカウボーイの曲のひとつだ。もともと 'The Sailor's Grave' という船乗りの歌だったが、32年に西部を舞台にした詩に変え、世の中に広まった。船乗りが海で死にたくないのと同じに、カウボーイも寂しい野原で死にたくない。

Well I'm doing my best to keep my thumb in the west
My little bronco in overdrive

'keep my thumb in the west'とは、俺はできるだけ親指を西に向けているという意味だ。ヒッチハイクのことではないと思う。西へ行くという意志だ。'bronco'はまだ未調教なカウボーイの馬のことだが、この場合、車のフォード・ブロンコにもかけている。'in overdrive'はもちろん車のハイ・ギアのこと。ちなみに完成版では'bronco'が'pony'となっている。

(chorus) And up is not the way I want to shoot

ここでまたサビに行くが、最後に1行足してある。'And up is not the way I want to shoot'＝俺は上には撃ちたくないという。カウボーイ映画では彼らが興奮してピストルを上撃つ場面があるが、これはそんな彼らを指している。'shoot up'はドラッグを注射器で打つことで、俺はヘロインはやらないと歌っているんだ。

最後にひとつ、付け加えたいことがある。マイケルは、半ば揶揄するような感覚でオースティンに集まる人々のことを歌った。恐らくニッテイもそれを理解して取り上げたんだと思う。しかし、彼らがカヴァーすることによって世に出たこの曲名は、ムーヴメントの呼び名にまでなり、一部からは反感すら買うことになってしまった。一時は、テキサスのバンド、というだけで、コズミック・カウボーイで歌われているようなイメージを持たれてしまったから。マイケルはこの曲名にしたことを半分後悔しているに違いない。自分でさえ、ステージの上で、俺は、コズミック・カウボーイじゃないと言いついていたぐらいだから